

“こうべ”の市民福祉総合計画の検証・評価について

1. 検証・評価の目的

“こうべ”の市民福祉総合計画の推進にあたっては、計画に定めた施策を着実に推進していくことを基本としながら、計画の進捗状況や社会情勢の変化等を把握して、成果を検証しながら、新しい目標に取り組むなど、柔軟に見直していくこととしている。

これを踏まえ、市民福祉調査委員会により設置された「市民福祉調査委員会 小委員会」を中心に、成果の検証・評価等を行う。また、今後については、全庁的に計画策定業務の見直しの中でPDCAサイクル作業の簡素化の徹底という大きな流れがあり、効果的な検証・評価方法についても検討していく予定である。

2. 検証・評価の方法

計画に掲げた4つの具体的取組み方策ごとに、関連する事業の進捗状況に対する検証・評価を行い、次年度へ向けた今後の方向性を策定する。

- (1) 行政による関連事業の進捗状況把握と自己評価
- (2) 小委員会による評価
- (3) アンケート等を通じた協働による改善・提案
- (4) 今後の方向性を策定
- (5) 調査委員会（本会）にて審議
- (6) 施策への反映・実行

3. 検証・評価のスケジュール

- (1) 年度終了後、前年度の進捗状況を行政内部にて検証・評価し、検証・評価シートを作成する。その後、調査委員会において審議し、既存施策の改善や方向性を見直し等を行い、次年度施策へ反映させる。
- (2) 「市民福祉に関する行動・意識調査」（市民5千人に対し実施、前回の回収率は40.5%）については5年に1度実施する他、神戸市ネットモニターアンケート等については適宜実施しながら、施策の改善や情勢の変化を踏まえた新たな取組み方策を検討する。

【検証・評価方法に対する小委員会での意見（主なもの）】

- 国の制度や社会の動きと照らし合わせた時にどうかということも検証していただきたい。
- 基本理念に対して、4本柱が今年度はどうだったのかという全体の視点がほしい。また、基本理念にどのように貢献しているのかという視点での評価や課題の抽出が弱いのではないか。
- 事業評価としては、数値や金額で評価が必要な一方で、市民福祉の観点からは、数値での上昇は示しにくく、質的に継続意義が大きいことは主張していく部分も必要である。
- 市民からの評価を得るためには、パブリックコメント的なものだけでなく、市民から直接的に意見を聞く機会を検討してほしい。
- 理念と4つの方向性との往復作業がないと事業をこなすことが目的になってしまう。評価シートに関して小委員会委員を交えて、あるいは委員の提案によるたたき台を精査する機会や場を持ってないか。